

# 島根県における主要水産資源に関する資源管理調査

(資源管理調査業務委託事業)

沖野 晃・安木 茂

## 1. 研究目的

島根県における主要水産資源の合理的・持続的利用を図るため、県内における漁業種別・魚種別の漁獲動向を把握する。さらに、小型底びき網漁業（手繰第一種漁業）において、選択漁具の使用によるズワイガニ小型個体の混獲軽減の検証及び、島根県沖合海域における底魚・浮魚資源の利用状況を把握し、資源管理手法開発の基礎資料とする。

## 2. 研究方法

### (1) 漁獲動向の把握

漁獲動向の把握は、平成 2004 年に開発した漁獲管理情報処理システム<sup>1)</sup>を使用している。今後、最新の OS、ソフトへ対応するためには改修が必要となることから、本年度は漁業許可登録等のシステム部分について改修を実施した。

また、漁獲管理情報処理システムにより漁業協同組合 JF しまねと海士町漁業協同組合に水揚げされる漁獲データを収集・集計した。

### (2) 選択漁具開発・普及のための調査

小型底びき網漁業（手繰第一種漁業）において、ゴミやズワイガニ小型個体の混獲を減少させることを目的に開発した選択漁具の使用を推進している。平成 2013 年度は大田地区にて、平成 2013 年 11 月～平成 2014 年 3 月に石見地区小型底びき網漁船 3 隻を標本船とし、当センターが開発した選択漁具の使用状況調査を行った。

### (3) 資源状況調査

島根県沖合海域における底魚類の資源管理手法開発の基礎資料とするため、試験船島根丸を用いて、計 2 航海のトロール試験操業を行った。浮魚稚仔魚を対象としたニューストンネットによる調査は天候不良のため実施ができなかった。

## 3. 研究結果

### (1) 漁獲動向の把握

現在の漁獲管理情報処理システムは、Visual Basic (VB) 6.0 で作成している。そのため最新の OS、ソフトへ対応するため VB6.0 から VB.Net への改修を実施した。

漁獲動向については島根県における主要漁業の毎月の漁獲状況について集計し、島根県資源管理協議会へ報告した。

### (2) 選択漁具開発・普及のための調査

選択漁具を使用した場合、各船の平均選別時間は平均で 2～9 分短縮された。

漁業者への聞き取りでは、大目合の部分は通常目合のカバーネットで覆い、小型のカニが多く入網すると思われる場所でカバーネットを外し操業する。また、カバーネットをした状態での操業は通常の網と変わらず操作ができ、小型のカニのほか、石、貝殻などの漁獲対象としないうものがよく排出されているとしている。

### (3) 資源状況調査

島根丸による主要底魚類のトロール調査は、水深約 120 m 高島沖にて操業を行った。今年度予定していた水深 130-150 m の操業は、海上天候不良のため調査できなかった。調査を行った 2013 年 10 月にはマアジ、キダイ、カナガシラ類、2014 年 3 月も同様にマアジ、キダイ、カナガシラ類が多く漁獲された。

## 4. 研究成果

調査で得られた結果は、島根県資源管理協議会へ報告され、漁業者が実施する資源管理の取り組みに利用されている。

## 5. 文献

- 1) 村山達朗・若林英人・安木 茂・沖野 晃・伊藤 薫・林 博文：島根県水産試験場研究報告第 12 号, p67 (2005).